

# カワハギ量産手応え

## 県水試が研究成果発表

宮崎県

県水産試験場(山田豊郎場長)の本年度研究成果発表会は13日、宮崎市県水産会館であった。漁業者や研究者ら約100人が参加。「カワハ

ギの稚魚生産」「巨頭鰯の増産」など4テーマについて、同試験場の研究員らが報告した。

同試験場増殖部の平山(よ



県内の水産関係者が出席した県水産試験場の研究成果発表会

主任技師は「カワハギの稚魚生産技術開発について」と題して講演し、天然海産と同じように卵を敷いた産卵機を設置し、集卵で産卵させることにより、確保できる卵の量が増えたと発表。一産卵からハギは天然物より肝が大きく、ため単価が高い。成

熟の早い配合飼料や病気に対するワクチンの開発などにも引き続き取り組めたいと話した。チヨウサメの稚魚生産や養蚕マスの産卵向上に向けた取り組みについての研究報告もあった。

山田場長は「県内の多くの漁業者は漁獲量減少や魚価低迷、燃料高騰などを厳しい経営差感いられている。水産業を持続可能で豊かな事業に再生させるため、きめ細やかな技術的サポートを行いたい」と述べた。